

## 令和元年度第2回ギャンブル等依存症対策研究会 議事要旨

日時：令和元年7月16日（火）午後2時30分から4時30分

場所：国民会館武藤記念ホール 小ホール

出席委員：井上研究委員、木戸研究委員、西村研究委員、河本専門委員、藤井専門委員、寺田専門委員

関係部局：IR推進局、府こころの健康総合センター、大阪府精神医療センター、市こころの健康センター、府健康医療総務課、府地域保健課

### <議事>

#### 1) ギャンブル等依存症の実状把握について

\*IR推進局から府市が実施する実態調査について、議論のポイントを説明後、意見交換（議論のポイント）

#### ①実施方法 ②調査数 ③調査対象者数 ④調査項目

（主な意見）

- ・ 大事なことは、定点観測し、調査を継続して実施すること。
- ・ 調査にあたっては、国レベルと違い、府単位の場合は人口流入などの変数を考慮しなければいけない。
- ・ 調査票は、海外のSOGSをベースに、若年層のアプローチに必要な年齢や、エリアなど、必要とデータを組み合わせることが必要。
- ・ 国と比較して高い低いとかいう人がいるかもしれないが、推移をみることが重要だ。

#### 2) 事業者も参画する協議体のあり方について

\*IR推進局からIRにおける依存症対策推進に向けた公民連携パートナーシップ体制（協議体）について、目的等を説明後、意見交換

（主な意見）

- ・ 今回は一から作るものなので、依存症対策そのものを公民連携で考える機会とすべき。
- ・ RG（責任あるゲーミング）とは事業者の戦略として、本来、事業者が自主的におこなうものであり、法律で規制する側である行政とはもともと緊張感があるもの。行政は事業者の取組みをしっかりと把握し、プレッシャーをかけていかなければいけない。

#### 3) 高校生向け予防リーフレットについて

\*IR推進局より、文部科学省の指導参考資料「「ギャンブル等依存症」などを予防するために」を基に作成した「高校生向け予防リーフレット（案）」について説明後、意見交換

（主な意見）

- ・ 脳の仕組みの説明で、慣れてきて、快感を感じるとあるが、慣れると普通はあほらしく

なってやめる。脳の変化は1つの仮説にすぎないし、なぜやめられないのかという説明になっていない。変な偏見が起きてしまわないか、よく検討してほしい。

- ・ 海外では、小学生ぐらいから働き掛ける。そうすると、12歳以下ぐらいの予防と、16歳になるとアルコール、薬と、ギャンブルが上がってくるので、別の予防になってくる。あと移民の人とか（属性ごとに）。
- ・ 海外では、大体わかりやすく、事実が伝えてある。16歳ぐらいで、問題行動が起きている人がいるので、起きている人へのメッセージと、そうでない人と、安全に遊んでいけば良いという教育、何種類かある。
- ・ ギャンブルに接近させないのか、接近するという前提でやるのかで全然違う。これまで日本は戦略的に分けてやっていないが、今後はハイリスクの子、10代前半の子に知っておくべきこと、とか分ける必要がある。
- ・ オレゴン州などは、一般とは分けて、子供たち用の啓発サイトを作っている。YMCが入り、画像も子供が反応するようなものを入れたりしている。ベースになる戦略を作っておいた方が良い。最終的には子供にアクセスしてもらわなければいけない。